

ならせ給き、御年三十四、白河院の御時なり、大將はのかせ給ひて、御隨身猶たまはらせ給ひて、手車の宣旨かふらせたまふ、略○中嘉保元年三月、日八關白のかせ給ひても、御隨身はもとのやうにつかはせ給ひき、同三年正月、六日二十なかのへの手ぐるまの宣旨ありき、

〔中右記〕永長元年正月廿六日丁巳、今夜大殿師通藤原中重之内乗輦可聽出入之宣旨被下、又左大臣

俊源房可聽輦車之由同宣下、中宮大夫師忠源奉勅仰下外記、二月十日、今日大殿内重輦車宣旨之後、

令申御慶給云々、廿七日戊子今日又左大臣輦車之宣旨令申慶給、

〔殿曆〕嘉承二年十月廿六日戊寅、參前齋院令子内親王今夜入内、即退出、略○中戊刻許寄御車、余忠實藤原出從東

門先參内、其路用北陣須之渡給有輦車宣旨、藏人長隆仰之、東北對西妻北面戸に寄之下給、後人々

退出、

〔公卿補任鳥羽〕保安四年

太政大臣 從一位源雅實五十六 正月廿七日日聽輦車、

〔長秋記〕天承元年七月廿七日辛酉、宰相中將請輦車宣旨、日記延久嘉保兩度記注送、右府家忠藤原可

被蒙宣旨云々、八月二日丙寅、右大臣蒙輦車宣旨云々、民部卿忠教藤原問其間事、一日宰相中將許

注送由答之、三日丁卯、自宰相中將許輦車宣旨後、未乘車之先、參内否由被尋下、不乘之先、參内様

不見之由答了、廿二日丙戌、宰相中將語云、右大臣奏輦車慶、略○中於南陣舍南邊下輦、時戸部云、可

卷車簾者、丞相不承引、

前日面次、予師源所諷諫申也、輦車不卷簾云々、

入左衛門陣代略○下

〔台記〕仁平元年二月廿七日戊辰、酉時頭朝隆朝臣來、示雜事、略○中又太政大臣實行藤原請聽牛車如何、

先例多先聽輦車、後聽牛車、直聽牛車、非無所疑矣、法皇鳥羽對曰、仰旨可然、非執政臣先聽輦車、後聽牛